

特別支援教育ワーキンググループ意見発表

場面緘黙の子どもたちへの 教育課程・学習指導の改善・充実について

2025年10月21日

辻田 那月（つじた なつき）

場面緘黙、自閉スペクトラム症の娘を持つ保護者

【所属】

- ・大阪大学 学際大学院機構超域イノベーション博士課程プログラム 特任助教
（兼任）COデザインセンター 特任助教
- ・場面緘黙親の会 副会長
- ・日本場面緘黙研究会 理事

【研究テーマ】

- ・場面緘黙と不登校との関連
- ・自閉スペクトラム症などの場面緘黙に併存する問題

団体紹介：場面緘黙親の会



○設立：2020年9月8日

○団体概要：

場面緘黙の子どもを持つ親や支援者のための任意団体。

交流の場としてオンラインコミュニティのLINEオープンチャットや保護者交流会の「はびもくcafé」、Webサイトでの親の体験談記事配信など保護者主体で運営。



LINEオープンチャット会員数：1700人弱
(2025年10月現在)



保護者交流会：年に6回程度開催

弊団体からの現状課題や改善への意見については、
これまでのLINEオープンチャットの投稿や、交流会での
発言など保護者の声を元に整理したものになります。

場面緘黙とは

場面緘黙の定義

「他の状況で話しているにもかかわらず、特定の社会的状況において、話すことが一貫してできない」

場面緘黙の分類

- ・医学的には「不安症群」に分類され、精神疾患として診断される。
- ・学校教育では「情緒障害」に分類され、「特別支援教育」の対象。
- ・法律上は「発達障害者支援法」の対象。

場面緘黙の社会的課題

- ・認知度が低く、「治療により改善が可能」「支援が必要」として認識されていない。
- ・海外では治療方法が確立されているにもかかわらず、国内では確立された治療法はない。
- ・早期介入が有効であるが、そのうち自然に話せるようになると捉えられ、様子見となることが多い。

幼・小・中・高校通常学級における現状課題と改善への意見(1)

< 現状課題 >

①

教師が場面緘黙の子どもに対する合理的配慮や指導方法を知らず、保護者から提案するしかない。



< 改善への意見 >

教師が合理的配慮案や指導案を知り、保護者に提案しながら一緒に考えてほしい。

②

教師が全員話せることを前提とした学級運営を進め、場面緘黙の子どもに参加できるような配慮をしてくれない。



教師は子どもが話せなくても授業や活動に参加できるような配慮を学級全体で行い、学級内での障壁をなくしてほしい。

③

教師が場面緘黙の子どもへの対応に理解がなく、保護者が相談しても気にしすぎと考え、様子見をしてしまう。



保護者と情報共有しながら、一緒に指導方法を考えてほしい。

幼・小・中・高校通常学級における現状課題と改善への意見(2)

< 現状課題 >

④

一部の友達とは話せるなど、場面緘黙の症状が軽い場合、指導が必要だと認識されにくい。



< 改善への意見 >

いくつか話せる場面があっても、教師が1対1で信頼関係を作るなど、話せる場面が広がるように指導してほしい。

⑤

個別指導の機会が学年を追う毎に少なくなり、中・高ではほぼ無くなってしまう。



なるべく早いうちから指導を開始し、学年が上がった場合でも教師と個別で関係性を作ることの重要性を理解してほしい。

⑥

支援されすぎて学級全体から「話せない子」として扱われ、話せるようになるための指導が行われない。



場面緘黙は改善させることができるという前提で、話せるようになるための指導をしてほしい。

通級における現状課題と改善への意見

< 現状課題 >

< 改善への意見 >

①

SSTなどコミュニケーション指導は可能だが、場面緘黙の不安に注目した指導が受けられない。



コミュニケーション指導が場面緘黙にも有効なケースがあるため、既存指導に加えて不安に対応する方法を知ってほしい。

②

通級での指導においては保護者から場面緘黙の対策を提案することが多い。



場面緘黙の指導方法を教師から保護者へ提案できるようにしてほしい。

③

授業での発表が可能で友達とも話せるなど、場面緘黙の症状が軽いと利用ができず、指導を受ける機会がない。



場面緘黙の症状が少しでも見られる場合は通級の利用を可能にし、指導を受ける機会を提供してほしい。

特別支援学級における現状課題と改善への意見

< 現状課題 >

①

場面緘黙の子どもを受け持った経験があっても、指導経験がある教師はほとんどいない。



< 改善への意見 >

特別支援学級の教師が場面緘黙の指導方法を学ぶことができるような機会を作してほしい。

②

教師の経験や知識の差が激しく、教師の対応や指導方法によって子どもが不安定になりやすい。



教師同士で引継ぎや情報共有を行い、教師によって対応方法が違うということにならないようにしてほしい。

③

情緒級で別の特性を持つ他の子ども達と一緒に学ぶと、場面緘黙の子どもは影響を受けやすく緊張して疲れてしまう。



教育課程を柔軟にして、個別の関わりができる時間が取れるようにしてほしい。

自立活動における現状課題と改善への意見

< 現状課題 >

①

個別指導を行うことができる自立活動のコマ数が少ない。



②

異学年、別の特性の子ども達と一律で行う活動において、個々に応じた指導がされていないことがある。



③

個別指導が行えていても場面緘黙の不安に対応するような指導は行われていない。



< 改善への意見 >

話せるようになるにはまず安心できる環境が必要ということを理解し、個別指導の時間を確保してほしい。

合同活動、一律活動はやめて、個々に応じた指導ができるように方針を見直してほしい。

自立活動で、声を出す練習や、話せる場面の拡大といった場面緘黙の指導を行えるようにしてほしい。

場面緘黙は、「治療により改善が可能」「支援が必要」にもかかわらず、
学校現場では、「障害による困難の改善・克服を目的とする指導」は行われていないのが実態。
※指導の対象として教師に知られていないと諦めざるをえないのが保護者の声



教育課程を柔軟に調整するなど
教師が個別で安心できる関係性を築いた上で、
話せる場面を拡大させるような指導を行えるよう改善を希望する